

**ONE
CLIP**

 うえだ はりゅう 整骨院

presents

ONE CLIP FOOTBALL LAB. in OSAKA

実施報告書

実施 概要

未来を支える “心に残る成功体験” を子どもたちへ

男女共に、日本代表に選ばれる多くの選手たちは、

現在海外クラブでプレーしています。

その活躍は子どもたちにとって大きな憧れである一方、

どこか遠い存在にも感じられるかもしれません。

そんな中、田中・守屋・東口という日本代表経験のある選手たちが、
今回のシーズンオフを利用して、
サッカーを頑張る女の子たちに直接指導し、
トレーニングを通じて「できた！」という成功体験を数多く届けます。

その体験が、子どもたちが将来壁にぶつかったときに思い出し、

「私にもできた」「褒めてもらった」と前を向く力になるように——。

そんな“心に残る成功体験”を、

このクリニックを通して育みたいと考えています。



- 主 催 : ONE CLIP 株式会社
- 後 援 : 吹田市 / 吹田市教育委員会
- 協 力 : ガンバ大阪
- 指導者 : 東口順昭 (ガンバ大阪)
田中美南 (ユタ・ロイヤルズFC / サッカー女子日本代表)
守屋都弥 (ユタ・ロイヤルズFC / サッカー女子日本代表)
- ゲスト : 倉田秋 (ガンバ大阪)
- 対 象 : 関西在住のサッカー少女 約120名
- 会 場 : 吹田市立総合運動場
- 日 程 : 2025年12月21日(日)
- 内 容 : 15:00～開会式・集合写真撮影
15:15～トレーニング開始
17:00～質疑応答、閉会式
- 参加費 : 無料

コーチ 紹介



ガンバ大阪

東口 順昭

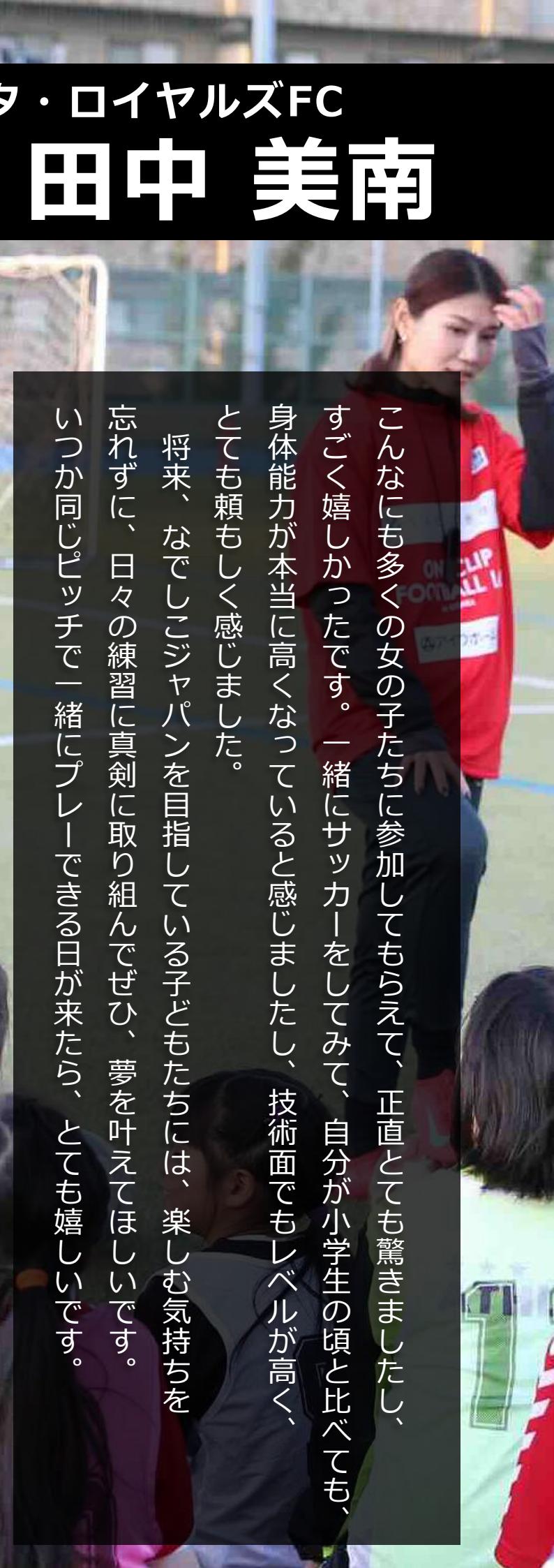
普段は男子を指導する機会が多い中で、初めて女の子の指導をしたのですが、技術的にも、フィジカル的にも言つたことを吸収して成長するスピードが速いなと感じました。また、とても元気よく参加してくれたので、指導している僕自身もすごく楽しく、元気をもらうことができました。こうしたイベントを通じ、男子サッカーはもちろんのこと、女子サッカーの盛り上がりにも貢献し、サッカー界全体に恩返しができたらと思っています。

ユタ・ロイヤルズFC

田中 美南

こんなにも多くの女の子たちに参加してもらえて、正直とても驚きましたし、すごく嬉しかつたです。一緒にサッカーをしてみて、自分が小学生の頃と比べても、身体能力が本当に高くなつていると感じましたし、技術面でもレベルが高く、とても頼もしく感じました。

将来、なでしこジャパンを目指している子どもたちには、楽しむ気持ちを忘れずに、日々の練習に真剣に取り組んでぜひ、夢を叶えてほしいです。いつか同じピッチで一緒にプレーできる日が来たら、とても嬉しいです。



ユタ・ロイヤルズFC

守屋 都弥

このように女の子だけを集めて行うサッカー教室は初めてだつたので、私自身もとても楽しかつたですし、今、関西で頑張つている子どもたちと直接会えたことが本当に嬉しかつたです。

技術の高さには驚きましたし、何より、私がアドバイスしたことをみんながとても素直に、そして真剣に聞いてくれたので、サッカー教室を開催して本当によかつたと心から思いました。





ガンバ大阪

倉田 秋

これだけ多くの女の子たちが集まるサッカーアイベントは、なかなかないと私は思います。参加してくれた子どもたちにとっても、きっと良い一日になつたのではないかと思います。実際に一緒にサッカーをして、レベルの高さには驚きました。将来が楽しみな選手がたくさんいたので、ぜひ女子サッカーにも注目してほしいです。このような指導の機会があつた事、心から感謝しています。

開会式



写真：開会式にて各コーチから参加者へメッセージが送られる

サッカークリニックに先立ち
開催趣旨や協賛企業の皆さまを
紹介させていただきました。

初開催となつた本イベントで
すが、定員100名程度(予定)
に対し、応募総数は約200名
を超え、定員に対して多くの応
募が寄せられたため、募集開始
後早期に受付を締め切るほどの
人気となりました。(最終参加人数
120名)

「絶対プロになる、 そう信じて!」

約2時間のトレーニングを実
りのある時間とするため、豪華
な現役プロ選手をコーチ陣とし
て迎えました。

開会式では田中から、「みんな
など会えるのがとても楽しみで
した！絶対プロになると信じて、
今日は一緒に楽しく練習しま
しょう！」というメッセージが
送られました。

豪華コーチ陣による トレーニング指導

本イベントには、小学1年生

から6年生までの幅広い年齢の
サッカーキッズが参加しました。

トレーニングは、シュートセ
クション、ロングキックセク
ション、キッズセクションの3
つに分かれて実施し、参加人数
が多い中でも、各コーチが満遍
なく子どもたちと交流できるよ
う工夫した構成で行いました。

また、各コーチがそれぞれの
専門分野を活かし、さまざま
な場面での的確なアドバイスを行
うなど、本イベントならではの質
の高い指導が実現しました。



写真：ゲストの倉田からもエールを送る



W-UP / アイスブレイク

心と体をほぐし練習に備える

アップでは、寒さで固くなっていた体と、緊張している子どもたちの心をほぐすため、プロ選手も一緒になって体を動かし、笑い合うことで、心も体も温めました。



失敗を繰り返して少しづつ上手くなる

本イベントでは、参加者に事前に「教えてもらいたいこと」についてアンケートを実施しました。その中で、特に多く挙げられたのが「ロングキックの蹴り方」でした。

そこでロングキックセクションを設け、正確なクロスを武器に日本を代表するサイドバックとして活躍する守屋が指導を行いました。

守屋は決してファジカルの強い選手ではありませんが、強く、そして遠くへ正確にボールを飛ばすキックを持っています。その秘訣として、「軸足の位置」「ボールを当てるポイント」「身体の使い方」を挙げ、実演を交えながら、子どもたち一人ひとりに丁寧な指導を行いました。また、ロングキックは「蹴りやすい位置にボールを置く」という守屋の大切にしているポイントに基づき、飛んできたボールを正確にコントロールする技術も含めた総合的な指導を行いました。すぐに上手くなるのが難しいロングキック、最後に守屋から「失敗を繰り返してたくさん練習してください」と言葉が送られました。



写真：足のどこでボールを蹴るのか、基礎を丁寧に指導する守屋

シューートは「外してもいい」

田中と倉田は、「シューート」をテーマにしたセクションを担当しました。プロの世界で何度もゴールを決めてきた両名からの指導に、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。

主なポイントは、「足のどこにボールを当てるのか」、そして「身体の使い方」でした。田中のように身長が高くなくても強烈なシューートを打てるという事実から、子どもたちが「自分もそうなれる」と信じて、意欲的に練習へ取り組む姿が印象的でした。

また倉田からは、技術面だけでなく、「外してもいいからまずはシューートを打つことが大切」という考え方も伝えられ、ゴールを奪うために重要な「姿勢」についても学ぶことができました。さらに田中と倉田は、パス出し役も担いながら、一人ひとり丁寧にアドバイスを行い、良いシューートが打てた際には心から褒めるなど、終始、子どもに寄り添った指導を行っていました。



写真：コーチ陣もパス出し役を担い、近くでアドバイスをした

サッカーを「大好き」になる。

それが一番の成長のコツ。



写真：子どもたちと一緒にサッカーを楽しむ東口



写真：子どもたちへシュートの打ち方を指導する田中

サッカーを「楽しむ」「好きになる」

本イベントには、小学1～3年生の、サッカーを始めたばかりの年代の子どもたちも参加してくれました。U9カテゴリーとしてセクションを設け、東口が指導を担当しました。

この年代の子どもたちには、難しい技術を教えるよりも、プロと一緒にサッカーをする中で「サッカーは楽しい」「もっとサッカーが好きになった」と感じてもらうことが、成長を大きく加速させます。シンプルですが、プロになる選手ほど、この気持ちを長く持ち続けているものです。東口はその想いを伝えるため、優しく丁寧に子どもたちとボールを蹴りながら、サッカーそのものを一緒に楽しみました。

途中からは田中も合流し、シュートの打ち方についてのレッスンを実施。その後は、代表経験もあるGKの東口を相手にシュートを打つ練習を行い、一生懸命に「ゴールを決める成功体験を数多く重ねてもらいました。

たくさんのが「ゴールを決めた子どもたちは、東口、田中からたくさん褒められ、これらの成功体験を通じて自己肯定感を高め、サッカーをより一層好きになってくれたことだと思います。「楽しかった！」その一言が印象的でした。

大人も子どもも、 サッカーを純粹に楽しむ =ファンサッカー



トレーニングの最後は、東口、田中、守屋、倉田とスポンサーの皆様で「大人チーム」を結成し、グループ分けした子どもチームと試合を行いました。

現役プロサッカー選手のプレーを間近に感じながら、トレーニングで学んだことを実践の中で活かし、大人相手にも果敢に挑んでいく子どもたちの姿を見ることが出来ました。学びの中にも笑顔溢れる瞬間がたくさんあり、「サッカーは楽しい」と子どもだけでなく、大人も一緒に改めて感じることのできる時間となりました。



写真：1日頑張った子どもたちを労う選手たち

イベントの最後には、表彰式と閉会式が行われました。それでのコーチが選ぶ Most Enjoyable Player (最もサッカーを楽しんだ選手) が5名選出され、田中が履いていたナイキ社製スパイクや、東口からは使用した「ゴールキーパーグローブ、その他、倉田・守屋・ONE CLIPからスパイクが贈呈されました。

普段、男の子と同じチームの中ではなかなか表彰される機会の少ない女の子たちが、少し照れながらも嬉しそうにプレゼントを受け取る姿が印象的でした。

そして、全員が楽しく全力で取り組んだ本イベントの締めくくりとして、田中から「私もまだまだ現役で頑張ります。だから、今日一緒にサッカーを頑張つたみんなにもプロになつてもらつていいか同じプロの世界で一緒にプレーできることを楽しみにしています」と、熱いエールが送られました。

最後は、頑張った子どもたち一人ひとりとハイタッチを交わしながら見送り、将来の再会を約束してイベントは幕を閉じました。



写真：MEPに選出された選手と写真を撮る守屋

ギャラリー①



ギャラリー②



ギャラリー③



ギャラリー④



ギャラリー⑤



ギャラリー⑥

